

平成25年度 学校関係者評価委員会報告

(1) 学校関係者評価委員会とは、法令に基づき、学校からの要請に応じて組織された委員会です。主な任務は、学校行事への積極的な参加及び観察を行い、学校評価(自己評価)結果についての検証及び協議を行うことです。委員の構成は、校長が地域教育関係者(保護司・民生児童委員・育成会・地域町内会長・PTA役員)に依頼して決定しています。委員会は、各学期1回開催され、年3回行いました。

学校教育目標	人間尊重の精神を基調とし、次のような教育目標を定める。 ◎よく考えて実行する ○なかよく助け合う ○体をじょうぶにする	重点目標 ☆学び合いを大切にしながら、よく考えて実行する。
---------------	--	---

◎評価指標 A…達成できた B…おおむね達成できた C…達成できなかった

育学校教 育目標	中期的 目標	短期的 目標	具 体 的 な 方 策	評 価 指 標	達 成 状 況		分 析	改 善 策	学 校 関 係 者 評 価
					中間 評価	最終 評価			
よく考えて実行する	確かな学力の育成	①基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 ②思考力・判断力・表現力を育成する。 ③主体的に学習に取り組む態度を育成する。	①漢字の基礎的・基本的な内容の定着を図る。	○学級の9割以上の児童が学年別漢字配当表に示された漢字の習熟を8割以上にする。	B	B	依然として個人差が大きい。新出漢字は習得していても、既習事項を忘れている。日常で活用できていない。	毎日少しずつの取り組みを徹底させる。ステップタイム等で復習や反復練習させる。休み時間等に個別指導する時間を増やす。	・日頃の授業を充実させていくと共に、来年度予定されている「放課後学習教室」(ASS)で成果が上がるように努力していく。 ・国語の「話す・聞く」の校内研究をさらに充実させていく。 ・算数少人数クラスを4月より習熟度別にし、個に応じた指導を行う。 ・授業中の「学習規律」「学ぶ態度」の指導も大切。 ・「話し方教室」が効果的であった。普段の学校生活におけるヒントとした。
			①既習事項を踏まえ授業のねらいを明確にし基礎基本の定着を図る。	○反復学習で習熟を高め、学級の9割以上の児童が算数の知識・理解の定着を9割以上にする。	B	B	以前と比べると向上してきた。	反復練習を面倒がる子もいるので、スモールステップで取り組ませる。休み時間等に個別指導する時間を増やす。	
			②言語活動の充実を図り、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成する。	○課題を把握して自ら考え、考えたことをノートに書いたり、話し合ったり、発表することができる児童を9割以上にする。	B	B	ノートの書き方に大きく差がある。発表は、できる子とできない子の差がより開いている。発表大勢の前でみる児童がいる。	よいノートの書き方をまねて、視写する学習をする。発表については、授業の振り返りの時間を持ち、発表することにより慣れさせていく。	
なかよく助け合う	豊かな心の育成 安全教育の推進	①児童の人権感覚の高揚を図る。 ②自然や人とのふれあい、思いやりを育む活動を進める。 ③生命尊重の道徳授業の充実を図るとともに、家庭との連携を進める。 ④防災意識や危険回避の行動様式を定着させる。	①他者を尊重する態度を育成する。	○進んであいさつをする児童を9割以上にする。 ○「みんなと仲よくする」という児童を9割以上にする。	B	B	挨拶を返すことはできても自分から進んでいくというものが少なく、朝の挨拶に限っているようである。	いつでも挨拶できるように繰り返し指導していく。日頃の意識付けを丁寧に行っていく。教師自ら進んで実践する。	・気持ちのよい挨拶をしていく子供が増えている。引き続き奨励していく。 ・子供たちの「優しい心」「やさしい言葉遣い」を醸成するために、学校やクラスの温かい雰囲気作りが必要になってくる。学年が上がっても温かい雰囲気を引き継いでいくようにしていく。 ・1年生の手を引いて登校する6年生の姿がある。きょうだい学級活動の成果である。来年度の縦割り班活動にも期待したい。 ・家庭との連携をさらに深めていく努力をする。
			②人とかかわりや思いやりの心、協力する態度や感謝の気持ちを育成する。	○きょうだい学級で仲よく楽しく遊ぶ児童を9割以上にする。 ○やさしい言葉で話ができる児童を9割以上にする。	B	B	やさしい言葉遣いについて、改善が見られたものの、9割には満たなかった。言語環境は、よいとは言えない。	「やさしい言葉」を具体的に示していく。学校全体で取り組み、家庭との連携もしていく。友達のよいところを見つけて発表し合う場を、帰りの会や授業の振り返り等で行う。	
			③年間指導計画のもと、計画的に道徳の授業に取組み、保護者に公開する。	○全学級が年間指導計画に則った授業を実施するとともに、公開授業日及び道徳授業地区公開講座開催日には、保護者・地域に公開する。	A	A	年間指導計画に則って、全授業を進めることができた。保護者にも全クラスを公開した。	来年度も授業研修会等で道徳授業等の質を高めると共に、道徳授業地区公開講座を通して、地域・保護者との連携を深める。	
体をじょうぶにする	健やかな体の育成	①児童の体力の向上を目指した活動を進める。 ②基本的な生活習慣の確立及び食育を推進する。	④避難訓練や安全指導等を計画的に実施するとともに、地域訪問等により通学路及び学区周辺の危険箇所を確認する。	○避難訓練を年間11回(各月1回)実施し、防災意識や危険回避の行動様式を全児童(100%)に定着させる。 ○4月中に全児童(100%)の通学路及び学区周辺の危険箇所を確認する。	A	A	年間を通して、計画通りの避難訓練と安全指導を行うことができた。また、4月の地域訪問で全児童の通学路の確認が済んでいる。児童の取り組み方が向上している。	今年度同様、来年度も計画に則った内容で様々な場を設定し、児童の危険意識を高め、危機管理の力をつける指導を行っていく。	
			①毎日の外遊びを励行するとともに、元気アップタイム、短縄月間を活用する	○進んで体を動かし、運動することが好きな児童を9割以上にする。	B	A	以前と比べ、外遊びが好きな児童が増えた。運動が嫌いなが、進んで取り組んでいる児童もいる。	短縄、長縄を1年の中で取り組める期間を増やす。また、元気アップタイムの内容改善を図る。また、クラス全体で遊ぶ日を設定することも考える。	・特に長縄には子供たちも意欲的である。長縄集会を学期に1回行うなど、回数を増やすことも考えられる。また、持久走に取り組むのもよい。 ・縦割り班や休み時間での元気アップタイムも考えたい。 ・給食をおいしく食べ、感謝の気持ちをもつ指導を充実させていくことも大切。
体をじょうぶにする	健やかな体の育成	①児童の体力の向上を目指した活動を進める。 ②基本的な生活習慣の確立及び食育を推進する。	②給食指導を通して食育を推進するとともに家庭と連携し、早寝・早起き・朝ご飯を励行する。	○好き嫌いをしないで、食べようとする児童を8割以上にする。 ○時間や提出期限を守れる児童を9割以上にする。	B	B	以前よりは改善されているが、期限を守れない児童が決まってきた。	意識づける声かけ等、個への対応も根気強くしていくと同時に、保護者とも連携を図っていく。	